

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284117

研究課題名(和文)近代ヨーロッパ社会の形成・変容過程における宗教の役割 カトリシズムの社会史的考察

研究課題名(英文)A Social History of Catholicism in Modern European Society

研究代表者

中野 智世 (NAKANO, TOMOYO)

成城大学・文芸学部・准教授

研究者番号：90454470

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、近代ヨーロッパ社会の形成・変容過程における宗教の役割を、特にカトリシズムに着目して歴史的に検討することにあった。分析の結果、明らかになった点は以下のとおりである。

(1) 生活習慣や儀礼、文化を通じて継承されるカトリシズムは、世俗化の進む19世紀以降のヨーロッパにおいても、一定の社会的影響力を保持していた。(2) 時代と地域によって偏差はあるものの、カトリシズムの影響力は、教育、労働、政治、福祉など、幅広い領域に及んでいる。(3)カトリシズムは、近代社会の諸原理に反発しながらも、部分的にはその論理を受け入れ、近代ヨーロッパ社会の形成をともに担ったといえる。

研究成果の概要(英文)：This research project explored what role Catholicism played in the formation and the development of modern European society. Our research group came to the following three conclusions.

First, Catholicism, as it continued to be expressed through everyday life and culture, maintained a certain amount of social influence even as Europe was experiencing secularization from the turn into the nineteenth century onwards. Second, though there were differences depending on era and region, Catholicism's influence was far-ranging, encompassing areas such as education, labor, politics, and welfare. Third, though it rejected many of the basic principles of modern society, Catholicism embraced some of them and hence became one of the driving forces in the formation of modern European society.

研究分野：西洋史

キーワード：西洋史 宗教 キリスト教 近代ヨーロッパ 社会史

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の西洋近現代史研究において、宗教というテーマはながらく等閑視されてきた。その背景には、近代の到来とともに宗教の役割は後景に退く、という伝統的な「世俗化史観」がある。中世・近世史とは異なって、近代史においては、宗教はもはや顧慮する必要のないものとされ、その結果、宗教にかかわる歴史研究はもっぱら教会史や神学の枠内で取り扱われ、一般歴史学の外に置かれる傾向にあった。

(2) しかし、宗教が様々な形で問題化する近年、ことに、イデオロギー対立にかかわって宗教・宗派対立が顕在化し始めた1990年代を境に、人文・社会科学全般において宗教問題への関心は高まりつつあった。報告者は、歴史学においても、従来の「世俗化史観」を見直し、近代社会の形成過程における宗教の位置づけを再考することが求められていると考え、本研究課題を着想するにいたった。

### 2. 研究の目的

上記の問題意識にもとづいて、本研究では、近代ヨーロッパ社会の形成過程における宗教の役割を、キリスト教、特にカトリシズムに着目して分析することとした。一般に、近代の諸原理に親和的とみなされるプロテスタントイズムに比して、カトリシズムは近代の「対抗勢力」、「前近代社会の残滓」として描かれがちであった。しかし、中世以来の「伝統宗教」として、ヨーロッパ社会の隅々に広がるカトリック文化、組織、人的ネットワークは、国家や公権力とは別の次元・論理による強大な組織力・動員力を有し、近代以降の政治や法制度、教育、文化など多方面に大きな影響力を及ぼしてきた。本研究は、こうしたヨーロッパ近代とカトリシズムの関係性を、単なる抵抗と対立の図式に還元することなく、具体的な事象に即して多面的・重層的に描き出すことをねらいとした。

### 3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究は、社会史のアプローチを選択した。制度や政策が内包している宗教的な価値規範、社会を動かす宗教・宗派的組織や運動の持つダイナミズム、あるいは、日常的な儀礼や慣習のなかの宗教的心性などを、個別の実証研究を通して可視化するためである。具体的には、教育、政治、労働、社会問題の4つの領域を定め、ヨーロッパのカトリック国・地域をフィールドとする研究者12名(フランス4名、ドイツ3名、スペイン、イタリア、アイルランド、ポーランド、オランダ各1名)が、それぞれの専門を生かした個別テーマを設定し、分析を進めることとした。

### 4. 研究成果

共同研究の成果は、下記に示す通り、個々

の参加研究者による学会発表、論文、翻訳、資料紹介および著書など、様々な形で公表されている。もっとも主要な成果としては、参加研究者による論稿を集めた論文集、中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編著『近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史』(勁草書房、2016年)の刊行があげられる。本書に即して、共同研究の成果を以下の3点にまとめて示す。

(1) カトリシズムは、近代の諸原理にしばしば強い反発を示しつつも、一部はその論理や価値を受け入れ、19世紀以降のヨーロッパ社会の形成に参与した。時代や地域によって偏差はあるものの、その影響力は、教育、労働、政治など、幅広い領域に見て取ることができる。

(2) 生活習慣や文化、儀礼、人々のつながりといった目に見える形で継承されるカトリシズムは、教会離れ・信仰離れが進む近現代社会においても、ある種の「耐性」を有していた。日々の生活や人生の節目に定型的に組み込まれた宗教実践は、社会集団を凝集させ、統合する機能を有し、それが、組織や集団としてのカトリックの強みでもあったことが明らかになった。

(3) 近代の諸原理と対立するカトリシズムの論理は、まさにそれゆえに、近代の論理では解決できない諸問題に対するオータナティブとして、現代的課題に応える可能性を秘めていることが示唆された。例えば、生命倫理やケアの領域などにおいては、科学や合理主義といった近代の諸原理とは異なるスタンスに立つカトリシズムの世界観、論理が並存していることが明らかになった。

同書がとりあげた近代のカトリシズムは、西洋近現代史研究においても、宗教学においても、これまで十分な蓄積がない分野であった。すでに、歴史学、宗教学の専門雑誌において書評が準備されており、2017年3月には、本書に対する合評会も開催された。本研究を最初の一步として、今後は、さらに対象領域を拡大し、あらたな分析視角を加味した共同研究を進める予定である。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計18件)

中野智世、「瓦礫の社会」と宗教的セーフティネット 占領下ドイツ(1945-1949)におけるカトリック・カリタスの救援活動、ヨーロッパ文化研究、査読無、36集、2017、1-27.

長井伸仁、第二次大戦後のフランスにおける司祭と労働について、文化交流研究、査読無、30号、2017、43-51.

長井伸仁、現代の「祈り、働け」 第二次世界大戦後のフランスにおける労働司祭、歴史と地理 世界史の研究、査読無、699号、2016、1-15.

前田更子、公教育とカトリシズム 近現代フランス教育史研究の可能性、歴史と地理 世界史の研究、査読無、694号、2016、58-61.

渡邊千秋、スペインにおける文化闘争の現在：少尉候補生に捧げるモノリス撤去をめぐる攻防、青山国際政経論集、査読無、97号、2016、223-237.

桜井健吾、(翻訳)W. E. フォン・ケテラー『自由、権威、教会』(1862年)(その4) 南山経済研究、査読無、31巻第2号、2016、109-114.

加藤久子、ポーランドのボードゲームに描かれるカトリック修道会の世界、日本文化研究所年報、査読無、9号、2016、47-55.

桜井健吾、(翻訳)W. E. フォン・ケテラー『自由、権威、教会』(1862年)(その3) 南山経済研究、査読無、30巻第3号、2016、209-247.

村上信一郎 ポストモダンの君主論 イタリア民主党論、神戸外大論叢、査読無、65巻4号、2015、5-35.

桜井健吾、(翻訳)W. E. フォン・ケテラー『自由、権威、教会』(1862年)(その2) 南山経済研究、査読無、30巻第1号、2015、33-68.

加藤久子、ポーランド人にとっての<アウシュヴィッツ> アウシュヴィッツ=ビルケナウ ナチス・ドイツの強制絶滅収容所、季刊民族学、査読無、153号、2015、18-29.

中野智世・前田更子・尾崎修治・渡邊千秋、ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム 宗教を通して見るもうひとつの「近代」、西洋史学、査読有、252号、2014、59-70.

加藤久子、資料紹介 河合博之駐ポーランド特命全権公使の改宗と客死(1933年) 『無原罪の聖母の騎士』誌より、日本文化研究所年報、査読無、7号、2014、58-66.

勝田俊輔、フランスとアイルランド 共通の歴史、差異の歴史、クリオ、査読無、28号、2014、1-44.

水島治郎、ポピュリズムとデモクラシー、

千葉大学法学論集、査読無、29-1,2号、2014、125-147.

[学会発表](計15件)

深沢克己、近世フランス宗教史上の諸問題 信仰と宗派のあいだ、日仏歴史学会総会講演[招待講演]、2017年3月28日、日仏会館(東京都、渋谷区)

中野智世、カトリック・ミリューとケアのネットワーク 占領下ドイツ(1945~49)におけるカリタスの事例から、国立民族学博物館共同研究会「家族と社会の境界面の編成に関する人類学的研究 保育と介護の制度化/脱制度化を中心に」、2016年10月9日、国立民族学博物館(大阪府、吹田市)

前田更子、世紀転換期フランスにおけるカトリック教育の再編と教員養成、比較教育社会史研究会、2016年、6月19日、愛知大学(愛知県、名古屋市)

加藤久子、社会主義期ポーランドにおけるカトリック教育、「宗教と社会」学会、2015年6月13日、東京大学(東京都、文京区)

中野智世、ケアの制度化と宗教 ドイツ福祉国家におけるカリタスの思想と実践から、国立民族学博物館共同研究会「家族と社会の境界面の編成に関する人類学的研究 保育と介護の制度化/脱制度化を中心に」、2015年6月6日、国立民族学博物館(大阪府、吹田市)

中野智世、慈善と正義のあいだで ドイツ社会国家におけるカリタス、ドイツ現代史研究会、2014年12月21日、同志社大学(京都府、京都市)

寺戸淳子・村上信一郎・中野智世、シンポジウム「奇跡・慈善・悔悛 カトリシズムという『周縁』から見る近代ヨーロッパ」、現代史研究会、2014年11月1日、国立女子大学(東京都、千代田区)

中野智世、趣旨説明、慈善と正義のあいだで ヴァイマル福祉国家におけるカリタス、シンポジウム「奇跡・慈善・悔悛 カトリシズムという『周縁』から見る近代ヨーロッパ」、現代史研究会、2014年11月1日、国立女子大学(東京都、千代田区)

寺戸淳子、ルルド傷病者巡礼における奇跡の治癒とカトリック医師、シンポジウム「奇跡・慈善・悔悛 カトリシズムという『周縁』から見る近代ヨーロッパ」、現代史研究会、2014年11月1日、国立女子

大学（東京都、千代田区）

村上信一郎、イタリア・マフィアとカトリック教会 犯罪と悔悛、シンポジウム「奇跡・慈善・悔悛 カトリシズムという『周縁』から見る近代ヨーロッパ」、現代史研究会、2014年11月1日、共立女子大学（東京都、千代田区）

〔図書〕（計26件）

Katsumi Fukasawa, Benjamin J. Kaplan and Pierre-Yves Beaurepaire (eds.) (25名による共著、一番目), Routledge, *Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World: Coexistence and Dialogue from the 12th to the 20th Centuries.* (担当箇所: Introduction, 1-14), 2017, 総頁数 380.

中野智世・前田更子・渡邊千秋・尾崎修治編著、勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史、総頁数 325、2016.

中野智世ほか(11名による共著、1番目、12番目、13番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所:「序」ii-xi, 第11章「カトリック慈善の近代ドイツ・ヴァイマル福祉国家におけるカリタス」, 294-321、「あとがき」, 323-325) 総頁数 325、2016.

前田更子ほか(11名による共著、2番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第1章「神のいる学校 19世紀フランスにおける女性教師の養成」, 4-32) 総頁数 325、2016.

加藤久子ほか(11名による共著、3番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第2章「社会主義政権下での宗教実践 スターリン期ポーランドの新興工業都市の暮らし」, 33-57) 総頁数 325、2016.

勝田俊輔ほか(11名による共著、4番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第3章「カトリシズム・リベラリズム・デモクラシー ラムネ、トクヴィルの見たアイルランド」, 61-93) 総頁数 325、2016.

渡邊千秋ほか(11名による共著、5番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、

執筆担当箇所: 第4章「言論統制下のカトリック スペイン・フランコ独裁における経験」, 95-122) 総頁数 325、2016.

水島治郎ほか(11名による共著、6番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第5章「もうひとつの『近代政治』 オランダのカトリック政党と『豊かなローマ的生活』」, 123-137) 総頁数 325、2016.

桜井健吾ほか(11名による共著、7番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第6章、「労働者の司祭ケテラー 19世紀ドイツの社会問題とカトリック社会思想」, 141-168) 総頁数 325、2016.

尾崎修治ほか(11名による共著、8番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第7章「世紀転換期ドイツの赤い司祭 H. ブラウンスとカトリック労働運動」, 169-197) 総頁数 325、2016.

長井伸仁ほか(11名による共著、9番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第8章「都市化とカトリック教会 ピエール・ランドが見た両大戦間期のパリ郊外」, 199-227) 総頁数 325、2016.

寺戸淳子ほか(11名による共著、10番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第9章「奇跡の聖地と医師 ルルド傷病者巡礼を通してみる宗教と科学」, 231-262) 総頁数 325、2016.

村上信一郎ほか(11名による共著、11番目) 勁草書房、近代ヨーロッパとキリスト教 カトリシズムの社会史(中野智世ほか編、執筆担当箇所: 第10章「マフィアとカトリック教会 犯罪と悔悛」, 263-291) 総頁数 325、2016.

中野智世ほか(11名による共著、6番目) 山川出版社、歴史のなかの社会国家(辻英史ほか編、執筆担当箇所: 第5章「社会国家と民間福祉 占領期・戦後西ドイツを例として」, 139-161) 総頁数 315、2016.

中野智世ほか(13名による共著、14番目) 昭和堂、教育支援と排除の比較社会史「生存」をめぐる家族・労働・福祉(三時眞貴子ほか編、執筆担当箇所:「障害児

の就労支援 ドイツ・クリュッペルハイム  
の職業教育」、286-288) 総頁数 307、  
2016.

渡邊千秋ほか(12名による共著、10番  
目) 明石書店、現代スペインの諸相：多  
民族国家への射程と相克(坂東省次監修、  
執筆担当箇所：第9章「現代スペインにお  
ける『宗教性』のゆくえ」、193-211) 総  
頁数 232、2016.

勝田俊輔ほか(8名による共著、1、2、4、  
10、11番目) 刀水書房、アイルランド大  
飢饉 ジャガイモ・「ジェノサイド」・ジ  
ョンブル(勝田俊輔ほか編、執筆担当個  
所：「はじめに」、3-7、第1章「アイルラ  
ンド大飢饉 概略と歴史認識」、9-26、  
第3章「大飢饉とアイルランド政治」、65-89、  
翻訳担当箇所：第9章、ジェーン・オハロ  
ラン「19~20世紀アイルランド文学と大飢  
饉」、219-251、第10章、L.M.カレン「大  
飢饉の歴史研究と20世紀アイルランド政  
治」、253-290) 総頁数 386、2016.

前田更子ほか(20名による共著、4番目)  
勉誠出版、世界史のなかの女性たち(水井  
万里子ほか編、執筆担当箇所：「19世紀フ  
ランスにおける寄宿学校の娘たち」、  
36-47) 総頁数 256、2015.

渡邊千秋ほか(10名による共著、11番  
目) ミネルヴァ書房、概説現代スペイン  
文化史(立石博高編、執筆担当箇所：第10  
章「教会・国家と脱宗教化」、226-247)  
総頁数 348、2015.

深沢克己ほか(17名による共著、6番目)  
昭和堂、アルプス文化史 越境・交流・  
生成(踊共二ほか編、執筆担当箇所：「ア  
ルプスと地中海 ジュネーヴからマル  
セイユへ」、90-95) 総頁数 268、2015.

21 長井伸仁ほか(15名による共著、8番目)  
教養のフランス近現代史(杉本淑彦ほか編、  
執筆担当箇所：第7章「民主と元首の相克」、  
103-118) 総頁数 358、2015.

22 中野智世ほか(13名による共著、11番  
目) 昭和堂、保護と遺棄の子ども史(橋  
本伸也ほか編、執筆担当箇所：第8章「『瓦  
礫の子どもたち』・『故郷を失った若者た  
ち』 占領下ドイツにおける児童保護」、  
242-268) 総頁数 315、2014.

23 長井伸仁ほか(7名による共著、7番目)  
ミネルヴァ書房、個人の語りひろく歴史  
ナラティヴ/エゴ・ドキュメント/シ  
ティズンシップ(榎原茂編、執筆担当個  
所：第6章「カトリシズムとデモクラシー  
のはざままで 世紀転換期フランスにお

ける聖職者の市民意識と自分史」、  
203-236) 総頁数 288、2014.

24 加藤久子、東洋書店、教皇ヨハネ・パウ  
ロ二世のことば 一九七九年、初めての  
祖国巡礼、2014、総頁数 79.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中野 智世 (NAKANO, Tomoyo)  
成城大学・文芸学部・准教授  
研究者番号：90454470

### (2) 研究分担者

渡邊 千秋 (WATANABE, Chiaki)  
青山学院大学・国際政治経済学部・教授  
研究者番号：00292459

前田 更子 (MAEDA, Nobuko)  
明治大学・政治経済学部・専任准教授  
研究者番号：30453963

深沢 克己 (FUKASAWA, Katsumi)  
京都産業大学・文化学部・教授  
研究者番号：60199156

村上 信一郎 (MURAKAMI, Shinichiro)  
神戸市外国語大学・外国語学研究所・名誉  
教授  
研究者番号：10305675

寺戸 淳子 (TERADO, Junko)  
専修大学・文学部・兼任講師  
研究者番号：80311249

長井 伸仁 (NAGAI, Nobuhito)  
東京大学・大学院人文社会系研究科(文学  
部)・准教授  
研究者番号：10322190

勝田 俊輔 (KATSUTA, Shunsuke)  
東京大学・大学院人文社会系研究科(文学  
部)・准教授  
研究者番号：00313180

### (3) 連携研究者

水島 治郎 (MIZUSHIMA, Jiro)  
千葉大学・法経学部・教授  
研究者番号：30309413

加藤 久子 (KATO, Hisako)  
國學院大学・研究開発推進機構・研究員  
研究者番号：10646285

### (4) 研究協力者

桜井 健吾 (SAKURAI, Kengo)  
尾崎 修治 (OZAKI, Shuji)